

第2回
「(仮称)はちおうじ未来デザイン2040」
懇談会

～ 健康・高齢者福祉 ～

東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科
杉原陽子

2040年問題

- 65歳以上人口がピークに(約4,000万人:2042年に3,935万人)
 - 団塊ジュニア世代(1971~74年生まれ)が65歳以上
 - 高齢者人口の約3割が「85歳以上」
 - 団塊ジュニア世代は、**就職氷河期・ロスジェネ世代**
(非正規雇用, 低生涯賃金, 低年金, 低貯蓄, 未婚, 独居)
 - 生産年齢人口(15~64歳)の減少(約6,000万人)
 - 1人の高齢者を1.5人の現役世代で支える
 - 高齢者世代の「高齢化」「貧困化」「孤独化」**により, 現役世代にかかる重みが増加(量的な面だけでなく, 質的にも)
- ※「支える人」を増やす。「支えられる人」の重さを軽く。

2040年問題への対応

- 2040年を展望した社会保障・働き方改革本部のとりまとめについて（厚生労働省保険局, 2019年）

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-syakaihosyou_306350_00001.html

- 令和2年版厚生労働白書－令和時代の社会保障と働き方を考える－（厚生労働省, 2020年）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/19/>

- 自治体戦略2040構想研究会 第一次・第二次報告（総務省, 2018年）

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/jichitai2040/index.html

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指す。

「現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題」

多様な就労・社会参加

【雇用・年金制度改革等】

- 70歳までの就業機会の確保
- 就職氷河期世代の方々の活躍の場を更に広げるための支援
(厚生労働省就職氷河期世代活躍支援プラン)
- 中途採用の拡大、副業・兼業の促進
- 地域共生・地域の支え合い
- 人生100年時代に向けた年金制度改革

健康寿命の延伸

【健康寿命延伸プラン】

⇒2040年までに、健康寿命を男女ともに3年以上延伸し、75歳以上に

- ①健康無関心層へのアプローチの強化、
②地域・保険者間の格差の解消により、以下の3分野を中心に、取組を推進
 - ・次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成等
 - ・疾病予防・重症化予防
 - ・介護予防・フレイル対策、認知症予防

医療・福祉サービス改革

【医療・福祉サービス改革プラン】

⇒2040年時点で、単位時間当たりのサービス提供を5%（医師は7%）以上改善

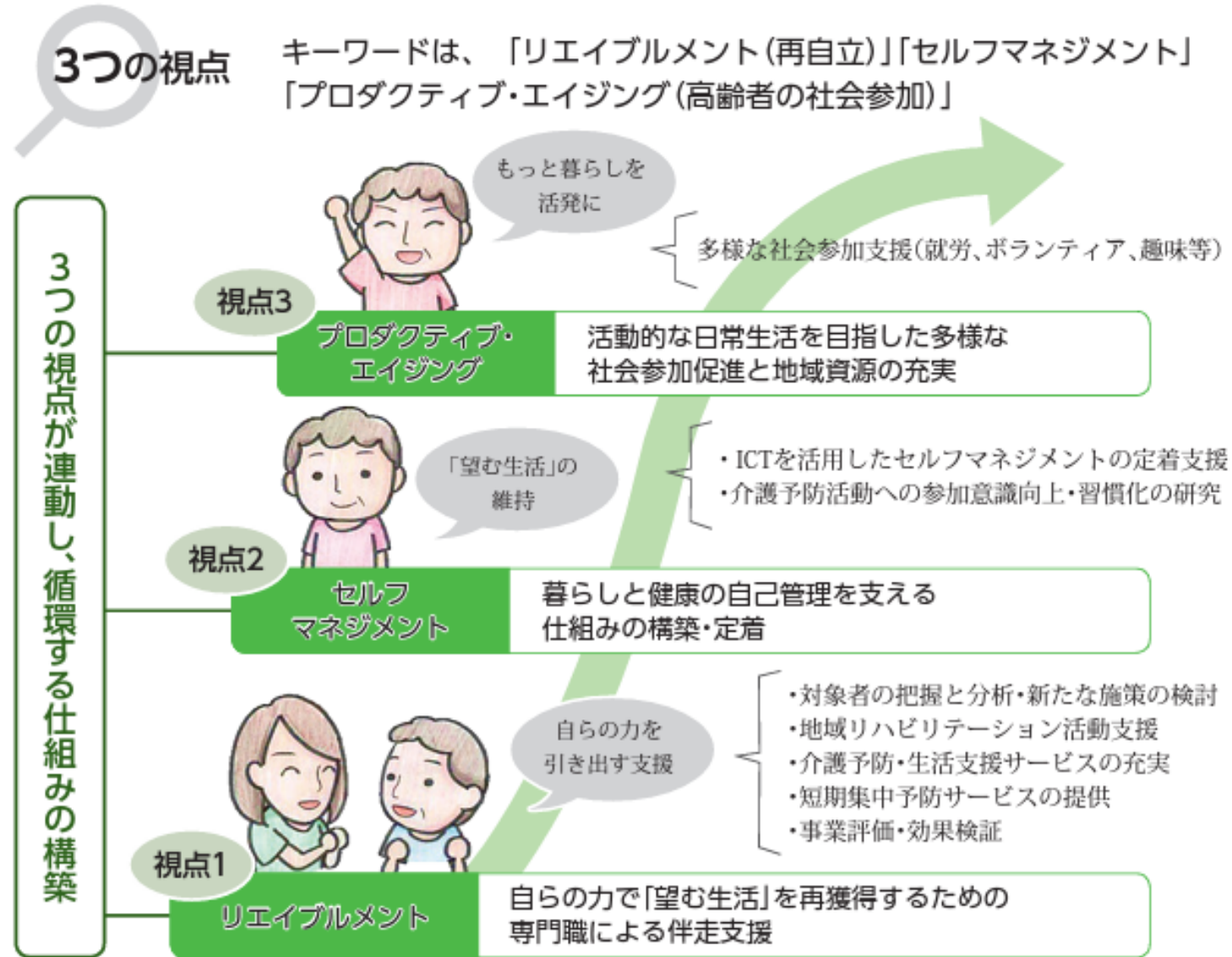
- 以下の4つのアプローチにより、取組を推進
 - ・ロボット・AI・ICT等の実用化推進、データヘルス改革
 - ・タスクシフティングを担う人材の育成、シニア人材の活用推進
 - ・組織マネジメント改革
 - ・経営の大規模化・協働化

「引き続き取り組む政策課題」

給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

出典：2040年を展望した社会保障・働き方改革本部のとりまとめについて

八王子市高齢者計画・第8期介護保険事業計画



プロダクティブ・エイジングとは

- 「高齢者はプロダクティブである」 ロバート・バトラー(1982)
 - 有償労働(就労)に限定して「生産性」を評価するのではなく
高齢者が行っている多くの無償労働(家事・介護・ボランティア活動等)にも目を向けるべき
 - 高齢者の能力を過少評価する「エイジズム(年齢差別)」への反論
 - 高齢社会に対する「悲観的な考え方」から「積極的な考え方」へと発想の転換を促す
- プロダクティブ・エイジングの意義
 - 生産年齢人口の減少への対応→高齢者も就労やボランティア活動等で社会を支える側に
 - 社会保障費の増大, 医療・介護保険財政の逼迫→社会貢献活動により健康増進・介護予防

プロダクティブな活動と心身の健康との関連

全国55～64歳の追跡調査

	抑うつ傾向		自尊感情	
	男性	女性	男性	女性
有償労働	↓ ↓			↑ ↑
ボランティア活動	↓		↑	↑ ↑
家庭内無償労働	↓			↑

全国70歳以上の追跡調査

	身体機能障害	認知機能障害
有償労働		
ボランティア活動		
家庭内無償労働	↓	↓ ↓ ↓
プロダクティブな活動の総時間	↓ ↓	↓ ↓ ↓

プロダクティブな活動の定義

